備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度	昭和５７年
総合計画 大項目 基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
総合計画 中項目 基本施策	01 生活しやすいまちづくり
総合計画 小項目 施策	10 適正な維持管理
事務事業名	07 漁業集落排水施設管理運営事業

根拠法令・例規等	水質汚濁防止法・浄化槽法
問合先 担当課（室）	下水道課
問合先 職・氏名	参事　初治　慎一
問合先 電話	0869-63-2330
このシート作成に要した時間	4.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	日生町頭島、大多府地区で生活する市民及び不特定多数
目的（何のために）	漁業集落の生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全の資する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	排水施設の処理機能を維持し、処理水の水質を良好に保ち、漁場の汚染防止に寄与する。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
漁業集落排水施設管理運営事業	頭島浄化センター維持管理業務 汚水処理施設に係る水質管理、汚泥管理、処理施設の適正な運転及び維持管理	○
	大多府浄化センター維持管理業務 汚水処理施設に係る水質管理、汚泥管理、処理施設の適正な運転及び維持管理	○

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

決算額

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	22,250	19,777	16,420
事業費	必要人員 人件費	千円	1.18人 1,753	0.09人 781	0.06人 568
事業費	事業費計	千円	24,003	20,558	16,988
財源	国県支出金	千円			
財源	受益者負担	千円			
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（　）	千円			
財源	一般財源	千円	24,003	20,558	16,988
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標

結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
汚水処理量		説明	汚水を浄化し公共水域へ放流した水量		
結果指標	結果指標量	㎥	99,235	110,827	120,377
結果指標	対前年比	%		111.7%	108.6%
結果指標	活動コスト	円	24,003,827	20,558,302	16,988,533
結果指標	単位当たりコスト	円	242	185	141

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
放流水のＢＯＤ値	目標値（A）	10.0	10.0	10.0	10.0
	実績値（B）	7	3	1.3	到達目標値
	達成率（A/B）	142.86%	333.33%	769.32%	10mg/ℓ以下

成果指標設定の考え方・式や説明

BODは、浄化槽が適正な維持管理により所期の処理機能が確保されているか否かを判定する指標である。
生物化学的酸素要求量：水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量。
大きい値ほど汚れが甚だしいことを示す。目標値(A)÷実績値(B)は100%以上とならなければならない。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：老朽化した施設の改修等を図り効率的な維持管理を行う。

総合評価

施設の老朽化は進行しているが、処理は概ね良好に行われており、引き続き処理機能を、十分発揮できるよう計画的に効率的な改善等を行う必要がある。

総合評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：老朽化した施設の改修等の効率的な方法及び処理方式の変更を含めた施設更新の方法について、引き続き継続して検討する。